

1. 画像の準備

画像は HTML ファイルに埋め込むことはできません。HTML ファイルと別に画像ファイルを用意し、そのファイルがどこに保存されているか記述された情報をもとにブラウザが同一文書内に表示させます。インターネット上で表示させるためには当然画像も HTML ファイルと一緒にアップロードする必要があるなどファイル管理が重要になります。

1-1 画像用フォルダの作成

画像ファイルは HTML ファイルに比べファイルサイズが非常に大きいので、その扱いに十分な注意が必要です。アップロード用フォルダに不用意に使用しないファイルなどを貯めこんでしまうとたちまち容量がいっぱいになってしまいサーバーが使用できなくなる危険があります。そこで授業では不必要なファイルのアップロードを防ぐため、画像管理用に以下の 2 つのフォルダを用意して管理します。

• web/DL/

DW の管理しない領域に使いたい候補の画像を保存しておくフォルダです。気に入った画像を見つけたらここへ保存し、そこから必要なファイルのみを厳選してコピーします。そのためのフォルダ DL を web 上に作成します。

• web/site/img/

実際にページで使用する画像を保存するフォルダで、HTML と一緒にサーバーにアップロードされます。HTML ファイルとフォルダを分けるのは、画像ファイルは 1 ページの中でも複数使われファイル点数が多くなり、同一フォルダに入れると必要な HTML ファイルが見つげづらくなり作業効率が著しく低下してしまうのを防ぐためです。

公開されるためフォルダ名は英数半角が必須です。

DL フォルダからここへはコピーをする必要がありますが、DW でサイト外の画像を貼り付けようとすると指示に従えば画像の貼り付けと同時にコピーも行なってくれます。

1-2 画像の保存

フリー素材など著作権に問題のない画像ファイルはインターネット上などからダウンロードして自分のページに貼り付けることができます。画像は以下の方法でダウンロードできます。

- 画像の上で右クリックしてメニューを出す
- 対象をファイルに保存で保存場所 (DL フォルダ) とファイル名を指定

1-3 画像の一覧表示

Windows 上で保存した画像を確認するには表示 > 縮小版が便利です。



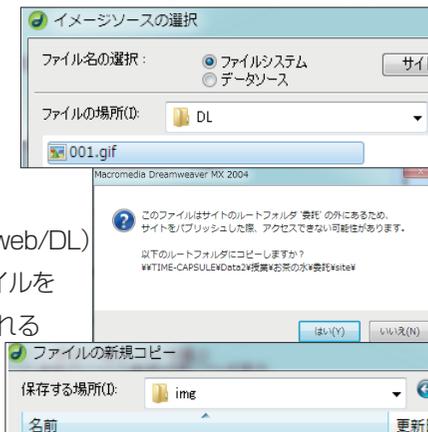
2. Dreamweaver での画像の挿入

2-1 挿入画像の選択

DW で画像を挿入するには挿入バー・メニューから「画像の挿入」でダイアログから表示したい画像を選びます。



- 挿入したい画像をダイアログから選ぶ



2-2 画像のコピー

ここで選んだ画像が DW 管理フォルダ外の場合 (web/DL) サーバーに画像をアップ出来ません。そこで、ファイルをアップロード可能なフォルダへコピーするよう促されるので、そのフォルダ (site/img) を指定します

- 保存先のフォルダ (img) をダイアログから選ぶ

OK を押すとドキュメントウインドウ上に画像が表示されます。

コードビューで確認すると画像の保存場所とファイル名が記述されています。

```

```

HTML 書類を先に保存しておく必要性

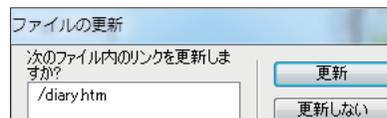
HTML で画像の表示などファイルの所在を示すには記述中のファイルから指定するファイルまでの経路を示します。このためには記述中のファイルがどこに保存されているかの情報が不可欠です。こうした場合に強制的にリンクを張ったり、あるいは DL 等管理フォルダ外からコピーせずにリンクを張ってしまうと、DW 上で仮表示はされますがサーバーに画像を送れないのでサーバー上ではリンク切れとなってしまうなどの問題が生じることもあります。

2-3 画像のファイル名などを変更する

ネット上から DL したファイル名はそのままでは判りづらいものが多いので、分かりやすいファイル名に保存時に変更しておくといでしょう。リンクを張った後に変更しようとする、前述のように HTML ファイルには画像のファイル名と保存場所が記述されているので、この記述も変更しなければならず大変だからです。

しかし DW には管理機能があるので DW からファイル名を変更すれば同時にリンクの記述も修正してくれます。これを行うにはファイルパネルからファイル名を変更します。

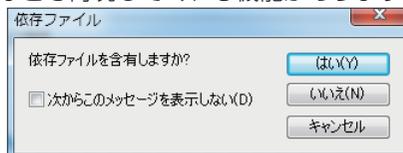
- ファイルパネルより名前の変更でファイル名を変更 (拡張子を忘れずに)
- ファイルの更新ダイアログで変更の必要な HTML ファイルが表示されるので更新



3. アップロード時の注意

アップロード時には HTML ファイルだけでなく貼りつけた画像等のファイル（依存ファイル）も忘れずにアップロードする必要があります。さらにその画像がフォルダなどに含まれている場合はそのフォルダも同じ階層に同じ名前で作らないと表示できません。

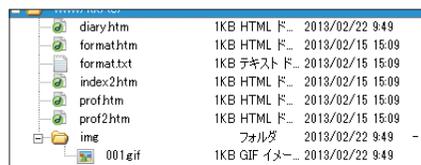
しかし DW では HTML ファイルを単体でアップロードしようとした時、貼り付けられている依存ファイルも同時にアップロード、フォルダなども再現してくれる機能があります。これがファイルアップロード時に尋ねられる「依存ファイルを含む」です。



3-1 依存ファイルを含む

「はい」を押すとページに貼り付けられている画像ファイルもすべて同時にアップロードしてくれます。画像がフォルダに入っている場合はそのフォルダも再現されます。

画像はもう既にあげられていて、ページの修正だけを行った場合などには「いいえ」を押すと無駄な上書きを防げます。



サーバー上にも同じフォルダが作られます

アップロードが不完全だったりファイル名がおかしかったりするとサーバー上で画像が表示されないことがあります。かならずアップロード後にブラウザで確認しましょう。

4. 背景画像

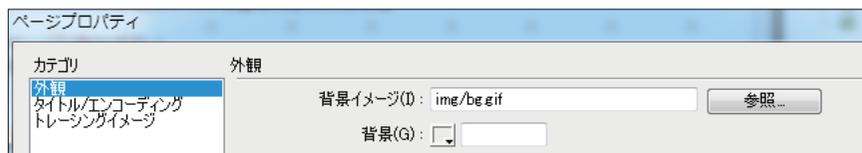
HTML ではページの背景に色を付けるだけでなく画像を敷くこともできます。

ページのサイズはブラウザによって変わる事と、大きい面積の画像はファイルサイズが巨大になるため通常は小さなパターン画像を用意しそれをタイル上に繰り返し敷き詰めることで背景としています。

背景に使う画像には上に乗った文字がどこでも読めるようにトーンを落とすなどの工夫が必要です。これらに対応した画像を壁紙などと称します。

DW での背景画像の設定

ページプロパティから「背景イメージ」の参照ボタンで画像の挿入と同じ要領で選びます。



5. 画像の最適化

容量の大きなファイルは表示されるまで時間がかかり閲覧者にもストレスを与えます。画像ファイルはとくに容量が大きいいため様々な方法でファイルサイズを軽量化する必要があります。デジカメ画像などはそのまま表示させるのではなく以下の方法で軽量化を行いましょう。これらの作業を最適化とも称します。方法としては

- 表示する画面に合わせて画像の大きさを縮小する
- 画像ファイルを圧縮する

等が必要です。この作業には画像編集ソフトが必要です。

最新版の DW では画像編集機能が内蔵され、画像編集ソフトを用いなくても DW だけで簡単な画像編集がプロパティインスペクタから行えるようになりました。



画像ファイルの圧縮方法

画像の圧縮方法は以下の二種が主流です。他にも PNG 等様々なフォーマットがありますが、ブラウザによっては表示できないなど互換性の問題もあるので通常は以下のふたつを使い分けます。

JPEG (.jpg)

画像を劣化させる圧縮法で、写真など色数・階調が多い画像の圧縮に用いられ、デジカメのデータなどにも用いられています。

劣化の度合いを比較的自由に選べるので用途に応じた圧縮ができます。

保存時に劣化させるので保存を繰り返すと画質の劣化が進んでしまうので注意が必要です。多くの場合圧縮は JPEG が用いられますが、文字などはボヤケるので可読性は低下し、ベタ面ではブロック状のノイズが目立つのでこうした場合は gif を用いましょう。

GIF (.gif)

使用する色の数を 256 色以下に限定する圧縮法で、イラスト等色数の少ない画像に用いられ、特に文字などの可読性にはそれほど影響しないのでボタン画像等に多く使われます。コマアニメーションが出来るアニメ gif なども作れます。